

平成 19 年度 電気規格調査会事業報告 概要

(自平成 19 年 4 月 1 日～至平成 20 年 3 月 31 日)

平成 19 年度電気規格調査会（以下 JEC と称する）は、電気機械器具および材料などの標準化に関する事項を調査審議し、電気分野における標準化を通じて、広く社会に貢献することを目的として、下記に重点を置き活動を推進した。

1. 電気規格調査会（JEC）規格の制定・改訂と普及の促進
2. 国際電気標準会議（IEC）規格に係わる審議
3. 日本工業標準規格（JIS）に係わる審議
4. JEC 活動の運営改善と活性化の推進
 - ・「JEC の活性化方策についてのアクションプラン」の策定
5. 国内外の標準化機関（経済産業省、日本規格協会他）との協力および連携

以下、重点項目に沿って主要事項を報告する。

1. JEC 規格の制定・改訂と普及の推進

(1) JEC 規格の制定・改訂（7 件）

- ・ JEC-5202 『ブッシング』の改訂
- ・ JEC-0221 『インパルス電圧・電流試験用測定器に対する要求事項』の改訂
- ・ JEC-2220 『負荷時タップ切替装置』の改訂
- ・ JEC-2201 『特殊変圧器』の改訂
- ・ JEC-1201 『計器用変成器（保護継電器用）』の改訂
- ・ JEC-2453 『高電圧交流可変速駆動システム』の制定
- ・ JEC-2100 『回転電気機械一般』の改訂

(2) 新たな知見、環境変化への JEC 規格の迅速な対応のための追補の制定（1 件）

- ・ JEC-2470 『分散形電源系統連系用電力変換装置』追補 1 の制定

(3) JEC 規格の普及を促進するため、部門大会などの機会を活用した規格説明会を開催

(4) 技術の進展に沿った JEC 規格の制定・改訂を推進するため、「JEC 規格、用語集および JIS 審議状況一覧」等を活用した 5 年見直しの徹底

2. 国際電気標準会議（IEC）規格に係わる審議

(1) IEC（International Electrotechnical Commission：国際電気標準会議）規格への、日本規格提案、ならびに日本意見の反映の推進

- ・ IEC/TC114「海洋エネルギー(波力・潮力変換)」の国内審議を新たに担当。
- ・ 30 の TC(Technical Committee：専門委員会)および 13 の SC(SubCommittee：分科委員会)に参画し、H19 年度に発信された IEC 文書 1510 件の中で日本としての回答が必要な文書 387 件に対して 231 件の国際回答原案を審議・回答。
- ・ IEC/TC14「電力用変圧器」における日本提案の規格「IEC60076-15:Gas-filled power transformers “ガス絶縁変圧器”」が IS(International Standard:国際規格)として承認。
- ・ IEC/TC106「人体ばく露に関する電界磁界および電磁界の評価方法」において、日本提案規格“電力線近傍の磁界測定法”を立案し、平成 20 年 3 月に CDV(Committee Draft for Vote:投票用委員会原案)を提出。
- ・ UHV(Ultra High Voltage)に関する国際規格を提案すべく活動している「UHV 国際標準化委員会」は、IEC/SMB(Standardization Management Board:標準管理評議会)による「UHV 技術の成熟度および UHV 規格の必要性の評価を目的としたシンポジウムの開催」の決議を受け、平成 19 年 7 月に中国（北京）にて開催された「IEC/CIGRE UHV 国際標準化シンポジウム」において、同委員会が中心となり 11 件の論文発表を

行い、シンポジウムの成功に貢献。

- ・ IEC/TC8「電力供給に関わるアспект」において、標準電圧の中に UHV(1100kV)を反映した CDV 文書が平成 19 年 11 月に発行。
- ・ IEC/TC28「絶縁協調」において、日本の低減電圧を含んだ試験電圧値を反映した CDV 文書が平成 20 年 3 月に発行。

(2)IEC 国際会議出席

IEC 規格への日本規格提案や日本意見を反映しやすくするため、

- ・ TC,SC,WG 他の国際委員会(延べ 131 回)に延べ 324 名の委員が参加。
- ・ 国際役員職務を積極的に引き受けることを推進、国際議長、国際幹事をはじめとした要職に 11 名就任。
- ・ TC112「電気絶縁材料とシステムの評価と認定」、TC8「電力供給に関わるアспект」、SC77A「電磁両立性 低周波現象」WG1 等の IEC 国際会議の日本開催。
- ・ 事業維持会費を原資とする延べ 6 名の国際会議出席旅費支援を実施。

3. 日本工業標準規格 (JIS) に係わる審議

- ・ 8 件の JIS 原案作成を完了、4 件の JIS 原案を審議中。

4. JEC 活動の運営改善と活性化の推進および顕彰

(1)活性化方策のアクションプラン

平成 18 年度に答申書としてまとめた「JEC のあり方について-活性化方策に対する提言」に対する具体的な施策 (アクションプラン) についてアドホック委員会による検討を実施し、「電気規格調査会活性化方策についてのアクションプラン」として策定し、新分野、新技術に対応するための政策委員会をはじめとしたそれぞれの役割の明確化、部会の再編成 (電磁環境部会、パワーエレクトロニクス部会の設置、他)、インターネットホームページや学会誌等の活用や規格説明会の開催による広報活動の充実などを推進。

(2)H18 年度に引き続き電気規格調査会として顕彰

- ・ 功績賞 (2 名) 富田誠悦氏: 人体ばく露に関する低周波電磁界の測定方法に関する規格策定に貢献、竹内南氏: パワー半導体モジュール技術、特に絶縁ゲートバイポーラトランジスタや MOS 形電界効果パワートランジスタに関する規格策定に貢献。
- ・ 功労賞 (1 名) 四元 勝一氏: パワーエレクトロニクス技術分野、特に安定化電源装置に関する規格策定に長年貢献。

5. 国内外の標準化機関との協力および連携

(1)UHV 国際標準化に向けて SB1 分科会と協力

SB1 分科会からの協力要請に対応し設置した UHV 国際標準化委員会(日高委員長)を中心に、JICCG(Joint IEC-CIGRE Coordination Group)により、技術分野毎の UHV 関連規格開発を推進。

(2)経済産業省が策定した「国際標準化活動アクションプラン」に基づく、IEC 審議団体への各種制度の活用による、国際標準化活動の支援。

- ①国際業務支援 (国際議長 TC77, 国際幹事 SC36A)
- ②IEC 重点 TC 国際会議出席旅費支援
- ③IEC (新規分野・産業競争力強化型国際標準提案)に関する「国際回答原案作成請負契約」と「国際規格共同開発委託契約」の締結
- ④国際会議出席旅費支援 (日本自転車振興会)
- ⑤国際会議の日本開催支援